

神戸市ソーシャルビジネス推進助成  
平成27年度

活動報告会

平成28年7月10日

協働と参画のプラットフォーム

(神戸市市民参画推進局参画推進部市民協働推進課)

## 目 次

### 【準備・創業期】

(ページ)

当事者による子育てと仕事の課題解決ネットワーク・・・・・・・・・・・・・・・・	1
なだワーク・ライフ・カフェ	

### 【発展期】

(ページ)

事務局体制強化のための機器整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
特定非営利活動法人 神戸なごみの家	

【準備・創業期】

団体名 : なたワーク・ライフ・カフェ

活動名 : 当事者による子育てと仕事の課題解決ネットワーク

実施期間: 平成27年7月1日(水) ~ 平成28年3月31日(木)

活動のねらい

子育てと仕事の両立のしづらさ、地域のつながりの希薄化を解決するため、交流イベント、語る場の提供、異世代交流、発信をする。

実施した内容

□月□□日	活動場所	参加人数	実施内容等
8/23	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 30人	【地域交流イベント・プール】活動開始周 プール、牛乳パック工作、交流会
9/27	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 20人	【地域交流イベント・音楽体験】 リトミック、音楽隊権
10/10	灘区ふれあい秋 都賀川公園	ボランティア 4人 利用者 50人	【灘区秋祭りイベントサポート】 バザー
10/16	つどいの家	ボランティア 1人 利用者 13人	【地域交流イベントサポート】 ミニデイサービス
10/18	つどいの家	ボランティア 3人 利用者 0人	【日曜カフェ】 地域の居場所作り
10/23	つどいの家	ボランティア 1人 利用者 13人	【地域交流イベントサポート】 ミニデイサービス
10/25	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 40人	【地域交流イベント・ハロウィン】 多世代交流
10/30	つどいの家 (相楽園)	ボランティア 1人 利用者 10人	【地域交流イベントサポート】 ミニデイサービス□相楽園付き添い
11/8	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 1人	【日曜カフェ】 地域の居場所作り
11/15	つどいの家	ボランティア 3人 利用者 15人	【地域交流イベント・お菓子作り教室】
11/27	つどいの家	ボランティア 1人 利用者 12人	【地域交流イベントサポート】 ミニデイサービス
11/27	つどいの家	ボランティア 1人 利用者 12人	【地域交流イベントサポート】 ミニデイサービス
12/6	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 12人	【地域交流イベントサポート】 クリスマスリース作り
12/20	つどいの家	ボランティア 3人 利用者 1人	【日曜カフェ】 地域の居場所づくり
1/10	つどいの家	ボランティア 3人 利用者 0人	【日曜カフェ】 地域の居場所づくり
1/24	つどいの家	ボランティア 4人 利用者 28人	【地域交流イベントサポート】 防災学習イベント
2/11	つどいの家	ボランティア 3人 利用者 12人	【地域交流イベントサポート】 小学校準備講座
3/27	つどいの家	ボランティア 1人 利用者 12人	【地域交流イベントサポート】 ミニ交流会

## 【準備・創業期】

### 達成された成果等

地域交流イベントや、地域交流サポート（つどいの家のデイサービスサポート）、日曜カフェ（地域の居場所づくり）を月2～3回のペースで実施。その様子をブログやホームページ、フェイスブックで都度発信することにより、地域の新たな出会いを創出した。共働き家庭の「保育所では保護者のネットワークが作れないが本当は作りたい」というニーズも確認することが出来た。

### 活動を通じて団体に蓄積されたもの

□ノウハウ・・・目標達成のための個々の役割分担や日々の行動から、働きながら子育てをしながら地域活動をする際の組織運営やコミュニケーションのコツ等をメンバーは学び身に付けた。

□ネットワーク・・・0歳～94歳までのご参加があり、同じ地域にいたのに会うことの無かった人をつなげることが出来た。ファミリーサポートセンターへの研修・登録やコープともしびボランティアのセミナー参加、2大学とのコラボレーション、学童とのつながり強化等、すでにある地域資源を有機的につなぐことが出来た。

### 今後の事業展開や展望等

この活動から得た「子育て＋仕事＋地域活動」という3つの役割を持ちながら地域で生活する手法は、共働き家庭の更なる増加・女性活躍推進・少子高齢化の中でモデルケースとなるのではないかと。引き続きこの形式で活動を続けて課題を見つけて、解決していきたい。ただ、この1年間の立ち上げ期は家族や自身の体調不良等、また忙しい中で時間を取られる、仕事の繁忙期と重なり疲労する等、メンバー各個人への負担は大きかったため、サポートスタッフ設置の検討や時間を作れそうな人への協力を仰ぐことも重要な課題である。

## 収 支 決 算 報 告 書

&lt;収入&gt;

(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
寄附など	16,801	
自己資金等合計 (a)	16,801	※1 自己資金等充当経費計(e)と同額
助成金交付申請額 (b)	100,000	※2 助成金充当経費計(d)と同額
収入合計 (c) = (a) + (b)	116,801	※3 総活動費(f)と同額

&lt;支出&gt;

(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
Ⅱ 助成金充当経費		
パンフレット作成費	2,257	活動①1007 活動⑥1250
郵送費	164	活動②82 活動⑤82
事務消耗品費	3,801	活動①2475 活動②918 活動③408
材料費の一部	62,805	活動①36,881 活動②4860 活動④17324 活動⑤3924 活動⑥11080 活動⑦5537 のうち62805
交通費	2,160	活動⑩2160
講師謝金	6,000	活動②2000 活動⑤2000 活動⑥2000
行事保険	12,813	活動①1813 活動②3000 活動⑤5000 活動⑦3000
保育謝金	1,000	活動⑥1000
施設利用料	2,000	活動⑤2000
つどいの家年会費	7,000	活動⑨7000
助成金充当経費計 (d)	100,000	※2 助成金交付申請額(b)と同額
Ⅲ 自己資金等充当経費		
材料費の一部	16,801	材料費のうち16801
自己資金等充当経費計 (e)	16,801	※1 自己資金等合計(a)と同額
総活動費 (f) = (d) + (e)	116,801	※3 収入合計(c)と同額

※ 1 (a) = (e)

※ 2 (b) = (d)

※ 3 (c) = (f)

## 【発展期】

団体名 : 特定非営利活動法人 神戸なごみの家

活動名 : 事務局体制強化のための機器の整備

実施期間: 平成 27 年 6 月 1 日 (月) ~平成 28 年 3 月 31 日 (木)

### 活動のねらい

高齢多死時代を迎える中で、神戸市兵庫区においても 65 歳以上の高齢者の占める割合と独居生活者が増加している。住み慣れた地域で暮らし続けるためには、介護予防は重要な課題となっている。

そこで、地域での活動推進を目的として、事務局スタッフの新たな雇用と H27 年 11 月神戸市兵庫区荒田町においてなごみカフェを開設した。また、カフェにおける地域の高齢者支援を目指したボランティア養成につながる聞き書き教室を開催した。

### 実施した内容

#### 1. 事務局体制整備

事務局スタッフの新たな雇用 1 名

PC 2 台

プリンター 1 台 2015 年 10 月購入

#### 2. 聞き書き教室 平成 27 年 6 月 20 日 (土) 13:00~16:00

会 場: 兵庫勤労市民センター

参加者: 24 名

講 師: 小田豊二 先生

(聞き書き教室開催の様子は別紙参照)

#### 3. 兵庫区荒田町におけるカフェ開設 平成 27 年 11 月 21 日

療養相談、グリーンケア、高齢者の寄り合いなど利用者が 3 月末において延べ 67 名となった。

今後は利用者のニーズ別の取り組みや利用者同士のネットワーク構築に向けた活動を検討している。

映画鑑賞会 2 回開催 参加者 約 6 名

音楽会 1 回開催 参加者 8 名

現在は月・水・金の 10:00~16:00 開催している。

### 達成された成果等

1. がんや長期療養者の相談により本人と家族の自己決定支援につながっている

2. 認知症をもつ利用者の家族支援

3. 要介護予防につながるカフェ利用者の増加により気軽な憩いの場となっている

## 【発展期】

### 活動を通じて団体に蓄積されたもの

地域の医師や訪問看護ステーションからの紹介利用者もあり、専門職間の連携による地域づくりについて学びを得た。

また、配偶者と死別して独居生活となった男性高齢者の支援が必要であることも明らかになり、今後計画的な支援の取り組みを検討している。

グリーフケアなど専門的な支援については大学の教員との連携により活動を推進することも重要であり、近隣の大学教員との協力体制を構築していくことになっている。

### 今後の事業展開や展望等

カフェの企画計画を月単位で行い、地域への広報活動を行っていくことで、より多くの参加が期待できると思われる。

がん療養支援や認知症患者の家族支援を目的とした企画を検討中であり、学識経験者、実践者、患者本人、遺族、栄養士などとのコラボレーションによりカフェ運営を企画検討中である。

今後は日常的なカフェ利用、遺族ケア、看取り支援、認知症患者支援などニーズ別の活動を行っていく予定である。

住み慣れた地域で最期まで過ごせる地域づくりにつながる活動を目指したい。

## 収 支 決 算 報 告 書

&lt;収入&gt;

(単位:円)

科 目		金 額	内 訳
I 自己資金等	自己拠出金	167,664	
	自己資金等合計 (a)	167,664	※1 自己資金等充当経費計(e)と同額
	助成金交付申請額 (b)	200,000	※2 助成金充当経費計(d)と同額
	収入合計 (c) = (a) + (b)	367,664	※3 総活動費(f)と同額

&lt;支出&gt;

(単位:円)

科 目		金 額	内 訳
II 助成金充当経費	パンフレット印刷費	15,516	コピー用紙、印刷費用他
	会場代	5,100	
	PC. プリンター購入費	158,838	226,502の一部
	テプラ購入費	20,546	
	助成金充当経費計 (d)	200,000	※2 助成金交付申請額(b)と同額
III 自己資金等充当経費	聞き書き講師料	100,000	
	PC. プリンター購入費	67,664	226,502の一部
	自己資金等充当経費計 (e)	167,664	※1 自己資金等合計(a)と同額
	総活動費 (f) = (d) + (e)	367,664	※3 収入合計(c)と同額

※ 1 (a) = (e)

※ 2 (b) = (d)

※ 3 (c) = (f)